

企業誘致で目指す 雇用拡大、地域経済の活性化



はってん
談話室



進出の決め手は 「交通アクセス」と「人材」

金子／それはありがたいお話です。雇用が増えることで、地域経済が活性化する大きな弾みになります。

新生電子（株）は関西を拠点に事業を展開しておられ、九州への立地は山下社長の故郷である宮崎県都市に次いで二カ所目だそうです。今回、多くの候補地の中から本県に決めた理由をお聞かせ願いますか。

山下／まずは交通アクセスの良さです。私どもはこれまで、兵庫県や三重県、大阪府など関西の工場を中心に電気・電子部品を製造してきましたが、近年、多くの自動車メーカーや関連企業が次々と北部九州に集結していることから、九州に拠点を構える計画を進めてきました。そんなとき、知人から「北部九州へのアクセス面から言っても長崎県がいいですよ」と勧められました。実は、自動車メーカーや一次下請けからの受注は、車で一時間三十分圏内に工場がないと難しいのです。

新生電子株式会社 社長

山下 重憲
YAMASHITA SHIGENORI

長崎県知事

金子 原二郎
KANEKO GENJIRO

県では、産業振興や雇用の確保を目的に、企業誘致に積極的に取り組んでおり、これまで自動車関連や情報通信関連など様々な分野の企業を誘致してきた。来年四月から佐世保ニューテクノパークで操業を開始する電気・電子部品製造メーカー、新生電子株式会社（本社：神戸市）もその一つである。今回は、同社の代表取締役社長である山下重憲氏を迎え、本県での事業計画や、氏の経営理念などを語っていただいた。

佐世保で自動車関連部品を生産、佐世保の雇用拡大に大きな貢献

金子／今年七月、佐世保ニューテクノパークで新工場の起工式が行われました。そして、来年四月から九州新生電子（株）として操業を開始されるということでも私もとても嬉しく思います。この場を借りて改めてお祝いと感謝を申し上げます。山下／長崎県への進出、新工場の建設にあたっては、金子知事をはじめ県の関係部署の方々にも大変ご尽力をいただきました。



新生電子株式会社立地協定調印式（平成20年4月8日）

何度も足を運んでもらい、助かりました。そして、何よりも人材が優秀ということが長崎に進出した一番の理由です。すでに立地されている多くの企業からも、長崎の皆さんは仕事熱心で、真面目だという評判をよく聞いています。

金子／おっしゃるとおり、本県の人材は高く評価されています。特に工業高校生の技術力は非常に高く、工業高校での第三種電気主任技術者や、第一種電気工事士の合格者数は八年連続日本一という輝かしい成績を残しています。

また、今年からは、県内就職につながる人材育成を目的に、佐世保工業高等専門学校と連携して、県内工業高校から同高専への編入学制度を設けました。さらに、同高専から県内企業に就職した方への



平成21年4月に操業開始予定の佐世保工場（イメージ）

した。こちらこそお礼を申し上げます。金子／現在、佐世保工場の建設は順調に進んでいるようですが、どんな事業計画をお持ちですか。山下／四万平方メートルの敷地に、約一万五千平方メートルの工場を建設しています。佐世保工場では、主にカーオーディオやカーナビに使用する電子部品の製造から組み立てを一貫して行うことにしています。そのため、地元を中心に三百人を雇用する計画ですが、受注状況によっては五百人まで増やしたいと考えています。

奨学金返済の支援も全国に先駆けて導入しています。山下／なるほど。そういった取り組みが優秀な人材の輩出につながっているんですね。

